

◆管内維持修繕業務:

基地給油所での標識車(後部緩衝材)接触(自損事故)

- 1.発生日時 : 平成31年2月22日(金) 16時15分頃
2.発生場所 : 東海北陸自動車道 ■■■HSC 清見基地給油所
3.事故内容 : 本線規制(排水溝清掃)作業を終え、基地帰着し給油を終えた標識車(■■■■)が給油所を離脱しようとした際、前方の駐車車両(除トラ)を避けようと後退したときに給油隔壁に、標識車後部緩衝材を接触させ損傷させたもの。

当事者: ■■■■ ①運転手 ■■■■ ②誘導助手 ■■■■

- 4.被災状況 : <人的被害>なし
<物的被害> 標識車後部緩衝材の凹み 約80cm

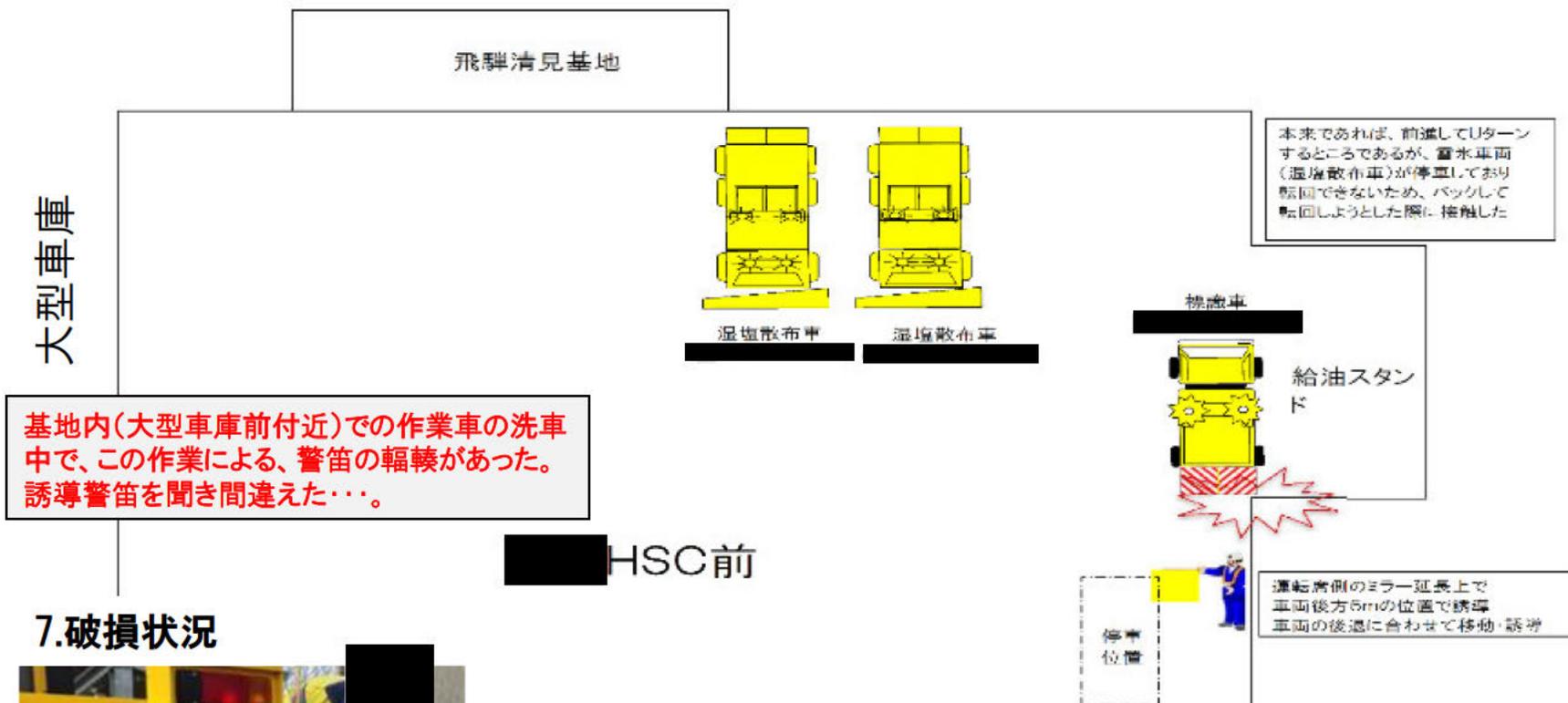
5.時系列

- 16:18 第1報 給油所にて標識車の後部緩衝材を給油所壁に接触させた。怪我無し、緩衝材の凹み確認。
16:20 ■■■HSC保全計画課長宛て、メンテ■■■より電話報告。
16:22 メンテ本社宛て、メンテ■■■より電話報告。

17:20 緊急安全大会を実施。

管内維持修繕業務： 基地給油所での標識車(後部緩衝材)接触(自損事故)

6.概要図



7.破損状況



管内維持修繕業務:

基地給油所での標識車(後部緩衝材)接触(自損事故)

6. 事故原因と対策

原因:

- ① 運転手から誘導員が見えなかった。
- ② 事前の打合せが不十分だった。
- ③ 給油する時に車を寄せすぎた。
- ④ 誘導の笛が聞き取りにくい状況だった。(別作業(洗車)の笛と輻輳していた。)
- ⑤ 誘導員が見えなければ車を動かさない事が徹底されていなかった。
- ⑥ ……だろー行動をしてしまった。
- ⑦ 気の緩み・安心感があった。
- ⑧ 除雪車両の停車位置がいつもと違う状況を確認し、注意すべきだった。

対策:

- ① 状況が確認しにくい場合は、**誘導員に声掛けし、誘導員が目視できる位置で誘導させる。**
- ② **運転手と誘導員の双方で移動方向と進み方を確認し、意思疎通した上で行動する。**
- ③ 誘導する**合図が聞き取りにくい状況であれば、車両を動かさない。**

7. 緊急安全大会//小集団活動…17:20~18:30

■安全大会

事故状況、経過の説明・周知

作業員による小集団活動 (グループ討議を実施)

「再発防止に向けて…」 当事者意識、考えることを醸成

【参加者】……42名

◇ 事件事例の要因深掘り

